

CD

## 新たな出会い

演奏学科鍵盤楽器専修 ピアノ 4年

物江莉紗

人はふとした瞬間に新たな出会いをするのであろう。道端に咲いている小さな花との出会いから、人生を大きく変える出会いまで、出会いと言っても様々なものがある…。

私はこの曲と伴奏で引き受けた曲として出会いました。初めは「弾きにくいけれど、ブラームスっぽくてピアノスティックだなあ」と思っていたのですが、意味や時代背景を調べていくうちに全曲聴いてみたいと思い、このデイスカウのCDを手に取りました。今回私が紹介したいのは、このCDの中の一曲、ブラームス作曲《美しきマゲローネのロマンス》です。この曲の主人公ペーター伯爵が、まだ見ぬ何かとの「出会い」を求め旅に出る、という所からこのお話は

展開されていきます。

この曲は、詩人、ルートヴィヒ・ティークが1796年に書いた18篇が15篇をピックアップして書いたものです。以前から外国への憧れを抱いていたペーターは、親しくなった吟遊詩人に勧められ思い切つて旅へ出ると、ナポリの美しい王女、マゲローネと出会います。彼女に心惹かれたペーターは指輪をプレゼントします。するとその思いがマゲローネに伝わり、2人は手紙を交わすようになりました。そんなやり取りが続き、2人は直接会うことになり、楽しみで眠れないペーターはリュートを片手に歌を歌います。しかしこの曲集の中盤、8曲目で2人はお互いに別れなければならなくなってしまう

ます。納得がいかなのまま離れ離れになってしまった2人は駆け落ちをし、終曲に向けて様々な困難を乗り越えながら永遠の愛を誓いつつ締めくくられます。

ブラームスはオペラこそ作曲しなかつたけれども、人が好きで人の声が好きだったようです。様々な詩から影響を受けたロマンチックな、内面告白的な歌曲作品が多いように思います。中でもこの《美しきマゲローネのロマンス》はオペラ作品に近いものを感じます。リート作品を聴くならシューベルト、シューマンが多い方も、是非一度ブラームス作品に触れてみてはいかがでしょうか。



ザルツブルグ・リサイタル/フィッシャー＝  
デイスカウ EMI TOCE6032～6034 1990  
請求記号●XD9458

☆図書館員から情報☆

図書館には紹介されたフィッシャー・デイスカウの他にもCDがあります。歌い手の男声・女声によっても印象が変わるかもしれません。聴き比べてみませんか。

★こんなのがあります

CD

- (1) Liebesgeschichte der schönen Magelone und des Grafen Peter von Provence. Teldec 1994 請求番号●XD30051 ブリギッテ・ファスバンダー
- (2) Romanzen aus Magelone. Camerata 1995 請求番号●XD32275/76 XD43928/29 エルンスト・ハフリガー
- (3) Lieder und Gesänge, Op.32. (ブラームス大全集 32) Deutsche Grammophon 1996 XD37848 デイスカウ

楽譜

- (1) Brahms Songs for voice and piano, Vol.2. Lea Pocket scores 1965. 請求記号●E1-829
- (2) 世界音楽全集 春秋社版 ブラームス1 1950 請求記号●F21-455
- (3) 世界大音楽全集 音楽篇 第7巻 ブラームス歌曲集1 音楽之友社 1956 請求記号●A6-349

## 図書

## 音楽をもっと楽しむ！

## 吹奏楽に興味のない方へ

音楽文化デザイン学科音楽創作専修（コンピュータ）4年

吉村謙介

は、大自然に根ざした響きを目指しているといった部活動の基本方針や、練習を飽きさせないためのアイデアなどを紹介。他にも各学校の先生方がたくさん工夫に満ちた部活動運営をしていることが分かる。それらはどのようにしたら生徒が音楽を楽しむことができるかよく考えてできたものである。

私はこの本を読むまで、自分は吹奏楽が大好きだと思っていた。たしかにそれは間違いではないのだが、しかし実は吹奏楽を通してたくさんの人と出会うこと、楽器について知ること、そして音楽を知ることを楽しむを感じていたのだと気付いた。自分の専攻楽器を極めることは大切だが、それが音楽という大きく自由な門の内側にあるのなら、音楽全体を知ろうとするべきである。私はそうすることで、ピアノを弾いていてもそこにオーケストレーションを感じるようになり、詞のない音楽にも歌を感じられるように成長できたと確信している。より広い視点から音楽にアプローチするヒントが詰まった一冊。吹奏楽とは縁がないという方にこそ、ぜひ一度手に

取っていただきたい。

高校時代から※1『バンドジャーナル』のような雑誌や※2『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』といった本を読んできたが、当時は他に読みやすい本が少なく感じていた。しかし、最近の情報が増え、試みに自分の専攻ではないことに関する本や記事を読んでみると良い。専攻との違いや共通点から音楽を深く理解することができるからだ。そしてきつと気付いた時には、私のように音楽の魅力にハマっちゃつてることだろう。

※1『バンドジャーナル 音楽之友社』  
※2『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』河出書房新社 2009

「必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編」丸谷明夫監修 ヤマハミュージックメディア 2013  
請求記号●J124471



おそらくこの本に興味を持つような方は、中学・高校で吹奏楽に打ち込み、現在もその魅力にハマっちゃつて人が多いだろう。吹奏楽大国とまで言われる日本では、ほとんどの中学・高校に吹奏楽部が存在する。そして、その顧問は音楽の先生、というのが一般的だ。しかし、音楽の先生の中には管・打楽器に触れた経験のない人もいる。さらに言えば、吹奏楽で使用される全ての楽器を吹けるなどという人はまずいないだろう。ピアノや歌一筋で音楽の先生になった方であれば、多くのキラキラした楽器に圧倒されてしまうかもしれない。そのような方にオススメしたいのが『必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編』である。この本には、「音楽とどう向き合

うか」ということが書かれている。

私は吹奏楽指導者コースのゼミに所属しているが、何か役に立つ本がないかと思い探していた時にこの本と出会った。中身は三つの章から成っており、第一章で「全国の吹奏楽指導者を訪ねて」、第二章で「プロが見た吹奏楽の指導」、第三章で「プロの指揮者が教える指揮者に必要なこと」について記述されている。私は特に第一章に書かれていることは、指導者にとっても、そうでない人にとっても、知っておけば必ず役に立つ内容だと思った。読みやすい漫画やイラスト付きで、様々な学校で指導されている先生方の「秘伝の書」のようなものが載っているのだ。例えば、北海道にある高校で

は、大自然に根ざした響きを目指しているといった部活動の基本方針や、練習を飽きさせないためのアイデアなどを紹介。他にも各学校の先生方がたくさん工夫に満ちた部活動運営をしていることが分かる。それらはどのようにしたら生徒が音楽を楽しむことができるかよく考えてできたものである。

私はこの本を読むまで、自分は吹奏楽が大好きだと思っていた。たしかにそれは間違いではないのだが、しかし実は吹奏楽を通してたくさんの人と出会うこと、楽器について知ること、そして音楽を知ることを楽しむを感じていたのだと気付いた。自分の専攻楽器を極めることは大切だが、それが音楽という大きく自由な門の内側にあるのなら、音楽全体を知ろうとするべきである。私はそうすることで、ピアノを弾いていてもそこにオーケストレーションを感じるようになり、詞のない音楽にも歌を感じられるように成長できたと確信している。より広い視点から音楽にアプローチするヒントが詰まった一冊。吹奏楽とは縁がないという方にこそ、ぜひ一度手に

取っていただきたい。

高校時代から※1『バンドジャーナル』のような雑誌や※2『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』といった本を読んできたが、当時は他に読みやすい本が少なく感じていた。しかし、最近の情報が増え、試みに自分の専攻ではないことに関する本や記事を読んでみると良い。専攻との違いや共通点から音楽を深く理解することができるからだ。そしてきつと気付いた時には、私のように音楽の魅力にハマっちゃつてることだろう。

※1『バンドジャーナル 音楽之友社』  
※2『カラー図解 楽器から見る吹奏楽の世界』河出書房新社 2009

「必ず役立つ吹奏楽ハンドブック指導者編」丸谷明夫監修 ヤマハミュージックメディア 2013  
請求記号●J124471

